

中等教育研究開発室年報 第32号 (2019年3月31日発行) 別冊電子版
2018年度 授業実践事例

芸術科 (音楽) 中学校第2学年

ケチャを応用したリズムアンサンブル

授業者 原 寛暁

(教育研究大会 公開授業)

広島大学附属中・高等学校

中学校 音楽科 学習指導案

指導者 原 寛暁

- 日時** 平成30年10月13日(土) 第2限 10:35~11:25
- 場所** 第2音楽室
- 学年・組** 中学校 2年A組 40人(男子19人 女子21人)
- 題材** ケチャを応用したリズムアンサンブル
- 目標**
1. 世界の様々な音楽文化の魅力を味わう。(音楽への関心・意欲・態度)
 2. 演奏表現において工夫できることを考える。(音楽表現の創意工夫)
 3. ケチャのリズム構築の巧みさを知り、表現できるようになる。(音楽表現の技能)
 4. 相互鑑賞し、評価し合ったことを演奏表現に生かす。(鑑賞の能力)

指導計画 (全10時間)

- 第一次 世界の民族音楽を学習する。 1時間
- 第二次 ケチャのリズムパターンを学習し、実演練習を行う。 1時間
- 第三次 グループを決めテンポや強弱などの工夫をし、中間発表を行う。(本時4/4)
- 第四次 相互評価を元に更に表現の工夫を深め、本発表と学習のまとめをする。 4時間

授業について

中学第2学年音楽の授業では、2学期に入ってから「世界の民族音楽」を学ぶ授業を実践している。今回の取り組みでは、アジアの民族音楽の1つとして、インドネシアのケチャの学習に取り組む。ケチャは複雑だが非常に巧みで優れたリズム構成システムを有しており、本来は壮大な物語の付随音楽として機能している。が、この取り組みの範囲内では初歩的なプロセスのみを扱うことで生徒たちの興味関心・知的好奇心を引き出そうとするものである。

対象クラスは活発な活動をすることができるが、相互評価の場面ではやや消極的な傾向があり個人差が大きい。生徒一人ひとりの個性に即した役割設定にも苦慮することはあるが、中学2年生という発達段階に応じた授業の運びにも工夫しながら、進めている。

巧みでシステマティックなケチャの魅力を味わうことで、自分達の国とは違う魅力を持った音楽文化の存在を実体験を通して受け入れられるようになる、ことを期待している。さらに演奏表現の主體的な工夫の中から、生徒たちの学びの深まりが引き出せるように、支援していきたい。

また今後は世界から更に我が国日本の音楽文化へと、視点を身近に移動させながら、その魅力を味わう方向へと進んでいきたい。

題目 グループの中間発表と相互評価

本時の目標

1. グループ練習で工夫したことを鑑賞者に伝え、演奏を発表する。
(音楽表現の創意工夫, 技能)
2. 相手の演奏を客観的に鑑賞し、具体的かつ適切に評価する。
(鑑賞の能力, 関心・意欲・態度)

本時の評価規準 (観点/方法)

1. ケチャのリズム構築の学習を生かしつつ、伝えたい意図を持った表現ができている。
(表現の工夫と技能/グループ発表)

2. 他者の演奏を客観的に鑑賞し，成果と課題を具体的かつ適切に伝えることができる。
(鑑賞の能力／ワークシートと意見発表)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p><導入></p> <p>○出席確認</p> <p>○本時のねらいを確認</p> <p>○ケチャの各リズムパターンの確認・練習</p> <p><展開></p> <p>○グループごとに分かれて，確認練習の発表・意見交流</p> <p><まとめ></p> <p>○相互評価 → 次時へのまとめ</p>	<p>○グループ別の席に着席，黙想を行う。</p> <p>○前時の自己評価シートの内容を確認し，本時のねらいを確かめる。</p> <p>○緊張に負けないように，しっかりと声が出せるようにする。</p> <p>○分散し中間発表で気をつけるべき点をグループ確認，練習する。 (Aグループ:第1音楽 Bグループ:第2音楽)</p> <p>○第2音楽に集合→中間発表→演奏評価をメッセージカードに記入→意見発表 ※もう1つのグループも同様</p> <p>○メッセージカードをグループ毎に回収。</p> <p>○本時の自己評価と次時の課題をワークシートに記入し，グループで共有する。</p>	<p>○心を落ち着かせる環境を整える。</p> <p>○本時のねらいと流れの確認をする。</p> <p>○授業者(またはどちらかのテンポリーダーの生徒)がテンポを示す。</p> <p>○授業者は巡回してフォローはするが，生徒たちが自主的に進められるように配慮する。</p> <p>○「演奏は堂々と失敗を恐れず，鑑賞はしっかりと聴く。」という心構えを確認する。</p> <p>○カードは次時に活用することを確認。</p> <p>○中間発表をやってみて，更に良くすることができそうな点を探す。←相手の演奏鑑賞をヒントにする。</p>
<p>準備物</p> <p>前時の自己評価ワークシート，メッセージカード用紙，ホワイトボードマーカー，ビデオカメラ</p>		

今日の目標

1. これまでの練習の成果を生かして，堂々と発表をしよう。
2. 他のグループの発表を鑑賞して，気づき(適切な評価)をまとめ，相手に伝えよう。

↓ 以下は，もう1つの (B グループ) への評価 ↓

※ 「良かったところ」と「改善できそうな点」を，適切に相手に伝えよう

	<ケチャ隊>	<演技隊>	<全体の噛み合わせ>
良かったところ	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムが正しく言えていた。 ・タンブールが，よくリードしていた。 ・切り替えのタイミングが良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり演技していたので，ストーリーが良く分かった。 ・体を使った演技は，見ても楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演技とケチャのバランスは，大体よかったと思う。 ・物語の進行が良く分かって，楽しく見ることが出来た。 ・オリジナリティが◎
改善できそうな点	<ul style="list-style-type: none"> ・パートで，良く聞こえるパートと，あまり目立たないパートがあった。 ・演技隊に対して，ケチャが大きすぎる部分があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身内ウケで，自分たちで笑ってしまうのは，カッコ悪いと思う。 ・最後のシメは，もう少し工夫をしたらよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・切り替えがうまくいっていないところがあったので，そこを練習すればよいと思う。 ・演技の体の向きは，”見る人に向かって”を徹底したらよいと思う。

自分のグループの発表について

：今日の発表の自己評価 (A~E: B)

今日の発表の様子は，次回の授業で鑑賞します。

⇒ **このプリントは，授業(机復元)後に，先生に渡してください。**

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業計画は、中学校第2学年の音楽科における総合的な学習の取り組みの一環であり、かつ本年度の研究テーマである「学びを深める4つのステップ」を意識したものであった。

学習計画自体は「世界の民族音楽」を体系的に扱うものであり、導入として、それら多くの民族音楽の鑑賞を行った。鑑賞を通して、それぞれの音楽の持つ特長を味わわせ、それらの生活文化や宗教上の背景を簡潔に学習した。次に、インドネシアのケチャに焦点を絞り、アンサンブルのシステムの学習と実践・グループ学習へとステップアップを行った。このケチャの実践では、AグループとBグループの2つの集団それぞれに、「ケチャ隊」「演技隊」という組織を設け、それらを総合的にまとめる「タンブール」というリーダーを中心に、毎時間成果と課題をグループ内でまとめさせながら発表を進めた。研究大会当日の授業は、2つのグループが相互鑑賞を行う初めての機会であり、「中間発表」という位置づけであった。

この学習を通して、世界の各地域にはそれぞれの魅力を持った民俗音楽が存在しており、ひいては「世界から日本へ」という視点で、第3学年では「日本の音楽」を深く掘り下げていくという方向性を示していく予定であるということで、授業説明を終えた。

2. 研究協議より

- ・生徒たちの活動は活発で、ストーリーを創作して設定するなど主体的なものになっていたのは良かった。
- ・ケチャの成立の背景（生活文化・宗教上）に導入期で触れたという説明があったが、その学習成果が生徒たちの表現そのものからはあまり感じ取ることが出来なかった。興味関心を引き出すためにシナリオを創作させたとのことだが、それが果たして適切だったのか。文化的背景をさらに強調して取り組ませても良かったのではないか。
- ・生徒の発達段階を考えれば、「ケチャ」の取り組みは一般的に困難を伴うものである。しっかりと一人ひとりが表現をしなければ成立しないアンサンブル形態であった。生徒によっては、積極的とは言えない姿が見受けられたが、そのような個々に対しての手立てが見える形での取り組みになれば、さらに良かった。
- ・生徒集団の発達段階の相違を、中学・高校の2つの授業発表を通して垣間見ることが出来たのは良かった。扱った教材そのものは異なっていたものの、表現を工夫し深めるなどの共通点もあったので比較ができた。